

国際英語科 2年 学校設定教科ワールド・スタディーズ 講演会「効果的な英語プレゼンテーションの方法」

7月6日（金）の4限に、国際英語科の2年生を対象にした講演会を行いました。「効果的な英語プレゼンテーションの方法」と題して、愛知淑徳大学のダン・モルデン先生にご講演いただきました。パワーポイントで効果的なスライドを作成するスキルや、プレゼンテーションにおけるメリハリのある話し方、そして質疑応答場面での対応の仕方など、多岐にわたるお話をいただきました。



モルデン先生の“Find eye contact points”というアドバイスにおいて、アイコンタクトがなかなかとりづらい生徒に対して、発表前に机やカーテンなどの部屋のいたるところにある目標物に目を向けて、そこをアイコンタクトポイントとして話をする、オーディエンスをしっかりと見ているように見えるという秘策をいただくことができました。また、パワーポイントにおいては、できるだけシンプルに、かつ文字は6行以内に収めるというアドバイスをいただき、理想的なスライドをイメージできた生徒が多くいたと思います。言葉や音をはっきり表現するという意味の“enunciation”を大切にしながら、時折ジョークを交えてお話しされる姿が印象的でした。

国際英語科の2年生は、10月に姉妹校である韓国の城南外国語高校を修学旅行の一環で訪れます。生徒たちはこの講演会で学んだことを生かして、英語でプレゼンテーションを行う予定です。

生徒の声

- これまでシンプルなスライド作りを意識していたが、6行以内で収めるという点は英語以外の知識としても学ぶことができた。英語ではプレゼンテーションをするときにはやはり抑揚などの話し方が大切だと改めて感じた。ストローを使った発音の練習がとても新しい視点だったのでぜひやってみたいと思う。
- プレゼンテーションは今まで何かとやってきたものの、今回のように講義を受けるのは初めてだったので、今まで何となくプレゼンテーションをしてきていたのが、言語化されたことでポイントを掴みやすくなったように思います。英語でプレゼンするとなると、内容を暗唱するだけでも精一杯になってしまうので、普段からの発音練習などが必須だと学んだ。
- 1スライドの行数の上限を知らなかったのですごくタメになりました。スライドが好きなのですが、私はカラフルでうるさい感じが好きなので何を作っても限度がよく分からなくて困っていました。今回一般的なルールを学べたのでスライドを作った時のチェックに活用したいと思います。一番印象的なのは“5秒しか待てない”という話です。当然、質問には早く答えようと意識しています。ですが、日本でプレゼンやスピーチをしたときに質問の答えを急かされていると感じたことはありません。なので、ずっと5秒を意識して質問に答えるってどういう気分なんだろうと思いました。英語なので難しいかもしれませんが、5秒を忘れずに頑張ってみようと思います。